

緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から



第62回 全国植樹祭

わかやま2011



天皇皇后両陛下

第62回全国植樹祭が5月22日、和歌山県田辺市新庄総合公園を式典会場に開催されました。全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林や緑に対する国民的理解を深めるため、毎年春季に天皇皇后両陛下ご臨席のもと、社団法人国土緑化推進機構と開催県の共催により行なう国土緑化運動の中心的行事です。

昭和25年に山梨県で第1回が開催され、以降各都道府県を巡り毎年開催されています。和歌山県においては昭和52年に那智勝浦で開催して以来、2度目の開催になります。



子ども大使によるアピール宣言

紀州木の国 和歌山から

和歌山県の植樹祭は神話をテーマにした歌と演舞、映像を駆使した内容になりました。

プロローグの前には国際森林年子ども大使より、「2011国際森林年」についてのアピール宣言が行なわれました。

式典は3,800人余りの参加者が見守る中、山伏のほら貝と和太鼓による演奏で幕を開けました。ステージから煙が立ち込める中、森の精霊が踊りながら登場し、和歌山県が「木の国」と呼ばれる由来となった創生神話が演舞で表現されました。続いて北海道のエゾマツを皮切りに沖縄のリウキウマツまで47の都道府県木を持った子どもたちが入場しました。演舞が終了すると、大会ポスター原画デザイン感謝状および「国土緑化・国際森林年」ふるさと記念切手の贈呈が行われました。

次世代へ引き継ぐために

開会の挨拶、三旗掲揚、国歌斉唱に続き、東日本大震災の犠牲者に対し、黙とうが捧げられました。大会会長で国土緑化推進機構会

長の横路孝弘衆議院議長が「我が国は国土の約7割を森林が占める「森林国」であり、その豊かな森林を守り育て、次世代に継承していくための活動が広まることを期待いたします。また、今年には国際森林年でもあり、その中の植樹祭の開催は大変意義深い」に述べられました。

また、仁坂吉伸和歌山県知事は「和歌山は豊かで多様な森があり、森の恵みに囲まれて暮らしてきました。しかし、林業の衰退により、管理されない森が増えてきた中で、民間企業とも協力し、林業の再生と森の保全などに、積極的に取り組んでいます」と開催県を代表して挨拶。



天皇陛下によるお手植え



皇后陛下によるお手播き

その後、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、緑化功労者、全日本学校関係緑化コンクール、和歌山県緑化功労入賞者がそれぞれ表彰され、県内の学校の代表から環境にやさしい竹ポットを使用した苗が鹿野道彦農林水産大臣に手渡され、披露されました。

続いて、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播きが行われました。天皇陛下は介添えする緑の少年団員にお声をかけながらウバメガシの苗など1本ずつ丁寧に植えられました。イチイガシなどを植えられた皇后陛下も植え終わった苗に土をかけ、根元部分を手で丁寧にならされました。

最後に、子どもたちによる愛樹

ち、林野庁近畿中国森林管理局の

サービス広場

の誓いが行なわれ、次大会に向けて仁坂知事から来年の開催地山口県の二井知事に大会シンボル「木製地球儀」がリレーされました。



子どもたちによる愛樹の誓い



竹ポット苗の披露



竹ポットに種子を播く皆川林野庁長官

今回、和歌山県は、森づくり活動に多くの県民が参加できるように、県内各地に植樹会場を設けるとともに、「苗木のスクールステイ」という子どもたちがこの植樹祭のために学校で育てた苗木を使っています。地域植樹の参加者は、実施済みの会場と実施予定の会場を合わせて総数4,560人に上り、計30会場で2万本植樹されます(12月初旬頃までの予定)。

ネル展示コーナーには、仁坂和歌山知事が訪れ、また、展示された樹種ごとの製材片には、訪れる人がみな興味を持って見ていました。

国土緑化推進機構のブースでは、国際森林年、フォレスト・サポーターズなどのパネルやパンフレットによる取組の紹介のほか、緑の募金に力を入れており、募金してくれた方たちへ記念品を配布していました。